

広島派遣研修で感じたこと

糸魚川中学校 2年3組 北山 結菜

私は8月5日から3日間、広島派遣研修に参加してきました。3日間を通して、戦争の怖さ、平和な現在の幸せについて学ぶことができました。

被爆体験者の講話では、山口さんからお話を聞いてきました。原爆を落とされたとき、山口さんのお兄さんが見た話では、家族みんなが傷だらけで、上も下も服が全部焦げてしまうほどの被害で、もう一人のお兄さんはすぐに亡くなってしまったそうです。亡くなった兄以外の家族は助かったものの、妊娠中の母親のお腹にいた山口さんは放射線の影響を受けており、生まれた後、たくさんの病気をわずらい、助からないかもしれないと言われたそうです。山口さんの命は助かりましたが、山口さんは心身ともに深い傷を負い、長い間その傷は消えることはありませんでした。原爆で家族を亡くした苦しみだけでなく、生き残った人も亡くなった人以上の辛い苦しみを抱えて生きてくるしかなかったということを知ることができました。

大和ミュージアムでは、「人は国のために死ぬ」という言葉が私の心に刺さり、忘れられなくなりました。当時、訓練をするときは、「何回生まれ変わっても国のために頑張る」、「何回生まれ変わっても敵を滅ぼす」という言葉を教え込まれたそうです。人間魚雷「回天」は、大量の爆薬が積まれた魚雷に兵士が乗り込み、水中から敵に突撃するもので、出撃したら生きては帰ることがで

きない兵器でした。兵士は死ぬ覚悟をした上で訓練をしたり、戦っていたのだと思うと、とても苦しい気持ちになりました。そして、自分の大切な人が亡くなっていくのに、何もできないその家族は、もしかしたら一番辛い思いをしたのではないかと私は思いました。

家に帰ると、私には優しくしてくれる家族がいます。学校に行くと、一緒に話してくれる友達があります。でも、それは普通のことではありません。大切な人と会えることはとても幸せなことです。そして、今の平和を作ってくれた辛い思いをした人々のことを忘れてはいけません。これからは今ある幸せを大切に、そして、戦争は人から当たり前生活を奪い、二度と繰り返してはいけないということをしっかり伝えて繋げていきたいです。
